



土岐市美濃陶磁歴史館

土岐市は岐阜県の東南部、名古屋から北東へ約40kmに位置する緑豊かなまちです。約1、400年前、飛鳥時代に焼かれた須恵器に始まる「美濃焼の街」として今もその文化を伝え、大小200を超える窯元が生み出す意匠多様な陶磁器は、生産量日本一を誇ります。さらに近年では、3つのインターチェンジを備える高速道路網

地域の絆で守るまちの安心・安全

土岐市民生児童委員協議会



の結節点として大型商業施設や企業の進出が続き、交流人口が大きく増加しています。

令和5年4月1日現在の人口は55,514人です。高齢化率は32.6%と高齢化が進んでいきます。

土岐市民生児童委員協議会は、単位民児協9地区で構成され、民生委員134名、主任児童委員18名で活動しています。

コロナ禍での活動

土岐市は、中央が丘陵地となっていることから、民生児童委員の行事を一同に開催することが難しいため、各单位民児協が、社会福祉協議会と連携し地元の特徴を生

かしたふれあい事業を行ってきました。しかし、コロナ禍の世の中になって各单位民児協で行っていたふれあい事業は軒並み中止となり、本来の活動ができませんでした。

その中で各单位民児協においては毎月定例会を開催し、各委員からの活動報告やそれぞれの民児協で勉強会などを行い、各委員のスキルアップを図っています。

また、土岐市民児協としては、コロナ禍をきっかけに「ときげんきニュース」の配布を始めました。「ときげんきニュース」は、民児協の発案により、地域包括支援センターが発行している広報チラシです。2ヶ月に一度発行し、地域の高齢者に配布しています。新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、対面による訪問活動が制限される中、高齢者のために何か出来ないか、と考え始めたものです。ニュースで取り上げる内容は、健康、食事、運動などの日常生活のことから、オレオレ詐欺、認知症など社会的な話題まで、幅広く取り上げています。高齢者にとって身近な話題を取り上げるように

こころがけており、高齢者の皆さんにとっても好評で、民生児童委員の訪問のきっかけにもなっています。

新型コロナの5類移行

今年度は、5月8日にコロナの5類移行に伴い、コロナ前の民生児童委員活動を再開し始めています。今後は各单位民児協において、引き続き感染症対策を行いながら、ふれあい事業など地域の特徴を生かし、地域に根付いた活動をしていきたいと思っています。



5月に行った総会の様子